

〔研究展望〕

映画の台詞利用による語句の多義性の認知的考察

— (a) part of X を基に —¹⁾松中 完二*¹⁾

A Cognitive Analysis of Polysemy through English Lines in Movies

— On “(a) part of X” —

Kanji MATSUNAKA

Abstract

In the field of cognitive semantics, scholars agree that the meanings of words and phrases vary to a certain degree depending on the contexts and situations in which people use them. However, a kind of shared core sense supports these semantic variations and expansions.

This paper focuses on polysemic structure and its cognitive mechanisms in the English phrase “(a) part of X” through the lens of cognitive semantics. We argue that through the employment of cognitive notions such as “core sense,” the expansion of the polysemic meaning of “(a) part of X” can be explained adequately. We also identify a useful way to apply these findings to English-language education through explanations and definitions found in dictionaries.

Key Words : (a) part of X, 多義, 参照点構造, 中心的概念, イメージ・スキーマ的転用

1. はじめに

多義は多くの言語に見られる意味現象であり、それは古今や洋の東西を問わず、言語学における主要な研究テーマのひとつである。しかし多義の研究は国広哲弥（1998：265-266）の指摘にも見られるように、殆ど目立った進展を見せてこなかった。多義とは1語が複数の意味を有し、それらの意味が体系的に関連している現象である。言語学的に多義の定義は枚挙にいとまがないが、多義の複数の各語義が意味的関連性を持ってつながっているという見解で一致する（Bolinger（1977：19）、国広哲弥（1982：97）、Lakoff（1987：416）『言語学大辞典 第6巻 術語編』（1996：885）、Goddard（1998：19）、Ravin and Leacock（2000：1）、Cruse（2000：115）、Taylor（2012：219）、辻 幸夫編（2013：217）、など）。Lakoff（1987）による over の多義性の研究に端を発する各語句の多義の研究についても、前置詞の広範な語義を結び付ける中心的な意味の設定が成功しなかったことで、いまだに有効な理論構築と証左ができていないのも事実である。

Taylor（2012：46-47）は、語の意味を品詞で分類することは問題が多い点を指摘し、語を品詞に分類することで生じる問題について、語彙カテゴリーとして最も揺ぎないのは名詞と動詞であり、とりわけ問題が多いのは副詞であると述べる。国広哲弥監訳（2005：iii）も、前置詞のような抽象的な概念を基本的機能とする語と、外界の事物を指す具体語の場合は事情が異なる（後略）として、多義の扱いや中心義の設定に対して品詞の性質と区分の重要性を説く。その一環として、本論では内容語としての名詞句の (a) part of X を取り上げ、筆者の主張する「中心的概念」という枠組みからその中心義の設定を試み、「中心的概念」の有効性を意味論的な立場から実証し、図式化を試みる。

その方法として、『グランドセンチュリー英和辞典 第4版』（GCEJD 4）と New Oxford Dictionary of English（NODE）における (a) part of X の意味記述を基に、言語資料として英語の映画の台詞を用いる。そして分析した言語資料の多義性を認知意味論の視点から図式化する点が本論の新規性と独創性である。なお本論は、松中（2005, 2006）において展開した多義語の「中心的概念」の実証を、さらに発展させたものである。

*¹⁾ 共通教育科
令和2年7月30日受理

2. 先行研究

2.1 認知意味論における多義の捉え方

多義の定義とその原理の解明について、言語学的には問題が少なくない。国広哲弥（1982：97）によれば、「多義語（polysemic word）とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う」ということになる。本稿でも、多義語についてはこの定義に従う。

従来の多義研究では、語義間の意味の有契性とそうした有契性を支える中心的な意味の解明が大きな目的であった。こうした研究の流れは Brugman（1981）に端を発し、Lakoff（1987）の「放射状カテゴリー」で一つの雛形が生まれ、Tyler & Evans（2003）の「多義性モデル」という経緯をたどるが、そこでの中心的な議論の一つは、多義の拡張と有契性を支える中心義となる意味の解明である。Taylor（2012：223）は、多義研究における姿勢を「一括主義者（lumpers）」と「細分主義者（splitters）」に分けている。構造主義的な意味研究の立場に立てば、多義の分析は基本的に細分主義的、または単義的なものにならざるを得ない。こうした視点とその記述法の行き着くところは、可能だけ多くの語義を羅列するだけの記述法である。しかるに多義の記述に当たっては、この方向性が破綻をきたすことは容易に想像がつく。多義の扱いとその理論的モデルの構築にあたっては、いまだ確固たる一つの理論的モデルの確立はなされていない。

2.2 多義の「恣意性」と「有契性」

これまで、語の多義性を誘発する原因については二つの考え方があった。それは言語の「恣意性（arbitrariness）」と「有契性（motivation）」である。言語の「恣意性」は、Saussure（1916）に端を発する。Saussureは言語の恣意性について、言語においてある特定の形態がある特定の意味と結び付くのは、単に社会的慣習の一部としてそのように決定付けられているからに過ぎないと述べる。この原理は、言語における多義性を無制限に許容する要因として働く。一方「有契性」という原理は Ullman（1962）に端を発し、それは「恣意性」に見られる傾向を阻止する方向に働くものである。「有契性」とは、特定の語が特定の意味を担っていることに何らかの理由があるとする考え方である。これは更に、音的な有契性、形態的な有契性、意味的な有契性の三つに分類される。多義構造の創出という問題でその直接的な理由となるのは、意味的な有契性である。意味的な有契性とは、ある語の特定の意味は、その同一の語の他の意味と、何らかの共通する意味上の関連性が存在しているためであるとする考え方である。意味的な有契性は、ある語の意味から他の意味が新しく派生される場合、原義と転義との間には何らかの共通する連想関係が存在しているためであるという姿勢を取るようになる。

このように、原義と転義の派生関係が有契的であるということは、ある特定の語と結び付き得る意味に何らかの方向性を与えるものである点で、ある特定の語と結び付き得る意味に何ら制限を加えることのない恣意性という考え方に対して正反対の原理で働くものである。そして認知意味論が取る立場は、言語の有契性の立場である。それは Brugman（1981）、Lakoff（1987）、Tyler & Evans（2003）らの先行研究や、プロトタイプ意味論の「語は何らかの核となる意味を有し、語義が少しずつずれていても互いに関連し合い、一語で表わされ得るような意味のネットワークを構成している」（Lakoff, 1987）という基本原理にも見ることが出来る。またそれは、プロトタイプ意味論から派生したネットワーク理論においても同様である。またこうした態度は、多義のみならず心象の投影結果としての言語表現の記述を可能にする側面を有している。それは、Fauconnier（1997：8）の言う「人間の精密な認知構築や解釈を通して映し出された言語表現（elaborate human cognitive constructions and construals）」の記述に通じるものである。こうした共通の意味認識に支えられ、多義を生み出すような概念構造を筆者は「中心的概念」と定義する。

2.3 英英、英和辞書における意味記述

(a) part of X の多義構造について、認知的原理から研究したものは、私の知る限りまだ存在しない。またその言語資料の題材に映画の台詞を用いたものも皆無である。映画の台詞を意味研究における言語資料として扱うメリットは、それが口語で人為的なものである点を認めるとしても、われわれの日常生活における日常言語の反映であり、例文という形での言語資料として有益であることは間違いない。そしてその発展形の一つとして、英和辞書における意味記述のあり方にも有効な成果が期待できる。そこでは訳語の単なる暗記から脱却し、語句の真の意味理解の促進が期待される。そこに映画の台詞を用いた実証と意味論的研究の融合の理想的な形がある。その足場として、ここでは既存の英和辞典において定義されている (a) part of X の意味記述を見ていき、2.3 では映画の台詞で使用されている言語資料を提示し、2.4 で分意味の分析を行う。既存の辞書として、本論では『グランドセンチュリー英和辞典 第4版』（GCEJD 4）と New Oxford Dictionary of English（NODE）を用いる。その理由は、GCEJD 4は意味の多義的連関を意味のつなが

りとして明示することを方針とする辞書だからであり、*NODE* は多義記述の豊富さとその意味拡張の派生関係を *core sense* という中心的な共通認識から派生するという視点の基に記述されているためである。また、(a) part of X の多義を扱うという性質上、その意味は名詞的なものに限定されるため、本論でも辞書における part の意味記述も名詞的な意味だけを扱い、「分ける」、「別れる」といった動詞の意味は扱わない。

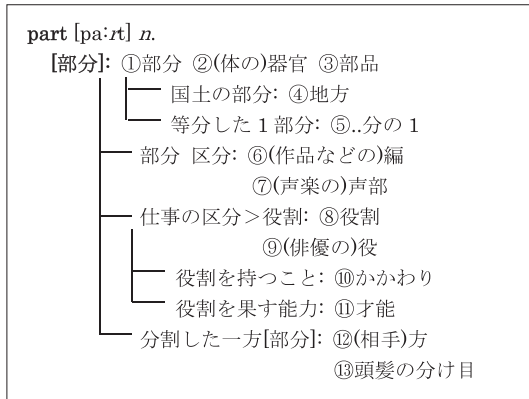


図 1. GCEJD 4 の“part”の記述

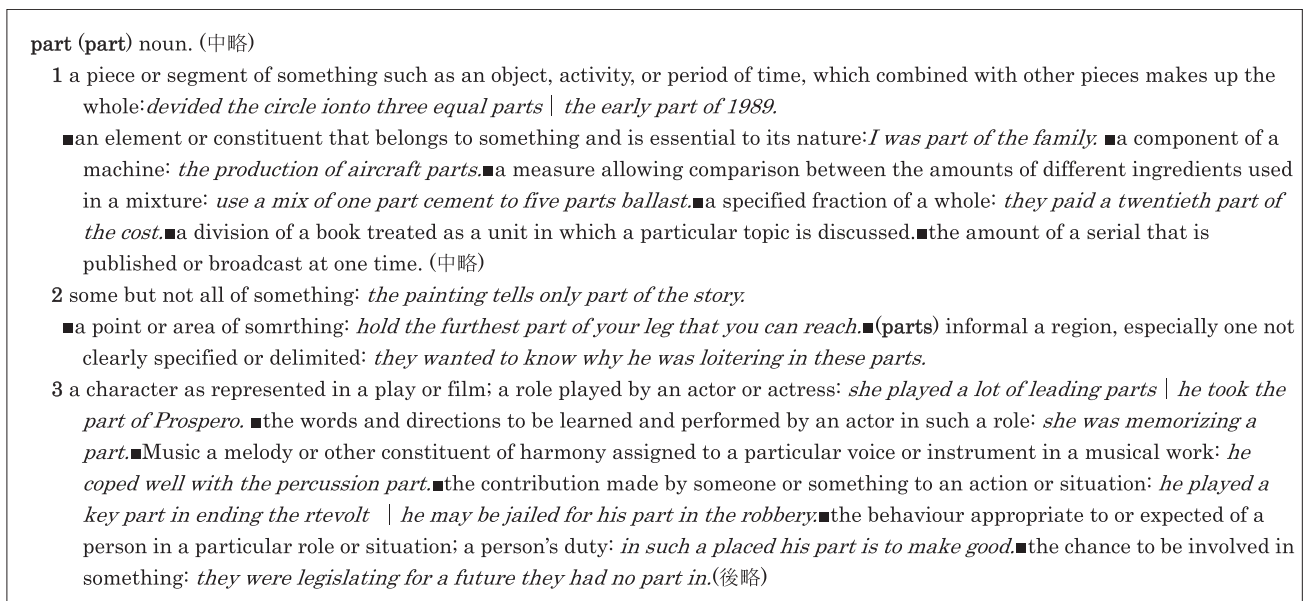


図 2. NODE の“part”の記述

図 1 の *GCEJD 4* では、part の多義の関連性を線で示すことで明示しようとする努力は見られるが、その語義設定と各々の語義の関連性が感じられにくい。また同辞典の (a) part of X の意味記述は「～の 1 部分、いく分か」という記述のみであり、part の多義性から生じる (a) part of X の多義については全く記述が見られず、用例も不十分である。一方図 2 の *NODE* では三つの語義を設け、そこから下部認識としての多義的意味拡張が形成されるのは見て取れるとしても、同辞典が前面に打ち出している *core sense* とそこから派生、拡張する (a) part of X の三つの語義と、それを生み出す根幹の中心的な認識の記述は見られない。(a) part of X は、「(X のうちの) 一部 (分)」という概念を基に、広範な対象を取り、多義を形成する。(a) part of X の「(X のうちの) 一部 (分)」という概念は、その属性により、全体を形成する一要素でありながら背景にある全体と強い結び付きを有し、部分が背後にある全体を指し示しながら、その全体と同一化することで多義的意味拡張を生む。しかしながら (a) part of X によって顕著化された部分が、背後にある全体との関係の中で多義を形成しどのような意味拡張を生むかについて、これまでの意味研究では十分に解明がなされていない。その実証法として、本論では映画の台詞を用例にして (a) part of X の多義構造を明確にし、その多義構造を生み出す認知的原理を解明する。

3. (a) part of X の使用例

ここでは (a) part of X の実際の用例とそれに伴う意味の拡張について見ていく。なお、字幕スーパーの日本語訳は、会話 1 秒につき 4 文字までと制約があり断片的過ぎて分かりにくい場合が多いため、本論文での日本語訳は、全て場面の情報を付した私訳である。また、これまでに採集した (a) part of X の使用例は総数で 47 例あるが、紙幅の制限もありそれらを全て例示できないため、ここでは各語義に代表的な 1 例のみを例示した。

3・1 人物に対する使用

3・1・1 集団の一員

(1)Threepio: “Wonderful! We are now *a part of* the tribe.”

Han: “Just what I always wanted.”

スリーピーオー：「でかしたぞ！ 僕達を彼らの仲間に受け入れてくれました。」

ハン：「そうこなくちゃ。」

映画 *Star Wars: Episode VI Return of the Jedi* 〈1 : 17 : 28〉

3・1・2 組織の一員

(2)Lando: “So you see, since we’re a small operation, we don’t fall into the jurisdiction of the Empire”

Leia: “So you’re *a part of* the mining guild then?”

Lando: “No, not actually. Our operation is small enough not to be noticed.”

ランド：「ご存知のように、私たちの都市は小さいものですから、帝国の支配下に入っていないです。」

レイア姫：「それじゃあ、鉱業同盟には加入しているの？」

ランド：「いいえ、規模が小さすぎてそれにも入れずにいます。」

映画 *Star Wars: Episode V The Empire Strikes Back* 〈1 : 27 : 53〉

3・1・3 恋愛関係

(3)Horry: “You still want him?”

Anna: “I don’t want him anymore. I don’t want see him or hear him, but he is still *a part of* me, that’s a fact.”

ホリー：「まだ奴のことが好きなのかい？」

アンナ：「今はもう未練はないわ。顔を見たくも、声を聞きたくもないわ。でも、どこかで彼のことを忘れられずにいることも事実だわ。」

映画 *The Third Man* 〈1 : 22 : 40〉

(4)Wendy: “Jack, look, I’ve already told you, if you want to be *a part of* my life, you can’t be hasslin’ me about stuff.”

Jack: “Wendy, I’m not *a part of* your life.”

ウエンディ：「ジャック、前にも言ったでしょ。私と付き合いたいなら、色々うるさく言わないでよ。」

ジャック：「ウエンディ、俺達まだ付き合ってもいないじゃないか。」

映画 *Innerspace* 〈00 : 29 : 33〉

(5)Rick: “Inside of us we both know you belong with Victor. You’re *a part of* his work, the thing that keeps him going.”

リック：「俺達二人とも心の中では、君がビクターといふべきだってことは分っているはずなんだ。君は彼の活動に必要な存在であり、彼の原動力なんだ。」

映画 *Casablanca* 〈1 : 36 : 48〉

3・1・4 夫婦関係

(6)Alex: “I want this child. It has nothing to do with you. I want it whether you’re going to be *a part of* it or not.”

Dan: “Then why you telling me? Huh? Why? Why not just go ahead and do it?”

Alex: “I was hoping that you would want to be *a part of* it.”

アレックス：「お腹の子供を産みたいの。あなたには迷惑かけないから。あなたがこの子の父親になろうとするま
いと構わないから。」

ダン：「俺の好きにしているんなら、何でわざわざ俺に相談に来るんだ？何故だよ？勝手に一人で産めばいいだ
ろ。」

アレックス：「この子の父親になつてくれるんじゃないかと考えたからよ。」 映画 *Fatal Attraction* 〈00 : 58 : 45〉

(7)Dan: “Alex, that’s your choice...honey, it has nothing to do with me.”

Alex: “I just want to be *a part of* your life.”

ダン：「子どもを産むか堕ろすかは君の好きにすればいい。僕には関係ないことだ。」

アレックス：「私はあなたと人生を一緒に歩いていきたいのよ。」 映画 *Fatal Attraction* 〈1 : 09 : 52〉

3・1・5 肉体関係

(8)Alex: “Hello, Dan? Are you surprised? This is what you’ve reduced me to. I guess you thought you’d get away with it, well, you can’t because *part of* you is growing inside of me, and that’s a fact, Dan, and you’d better start learning how to deal with it.”

アレックス：「もしもし、ダン？私よ。驚いた？あなたが私にしてきたことと同じ事をあなたにもしてあげるわ。逃げられるとでも思ってるの？もう私のお腹の中ではあなたの存在のかけらが息づいているのよ。これは事実だし、その責任の取り方を考えた方がいいんじゃないかしら。」

映画 *Fatal Attraction* 〈1 : 17 : 31〉

3・2 心的様態に対する使用

3・2・1 精神的支柱

(9)Rick: “And where I’m going, you can’t follow. What I’ve got to do, you can’t be any *part of*.”

リック：「俺が行く所に君がついて来ることは出来ない。俺がやるべきことに、君が力になることも出来ないんだ。」

映画 *Casablanca* 〈1 : 37 : 18〉

(10)Garrett: “Ah, except you see, I think that it turns your profession into a ‘sex trap!’”

Aurora: “Aw, come on, everybody uses whatever they have. I earned it. It’s a hundred and six astronauts in the whole world. I’m one of them! It’s as much *a part of* me as anything else.”

ギャレット：「宇宙飛行士っていうあなたの職務を、女を落とすための道具にするなんて。」

オーロラ：「おいおい、他の連中だって同じようなことやってるんだ。世界中に宇宙飛行士はたった160人しかいないんだ。僕だってその一人だし、そのことを誇りに思っているんだ。」

映画 *Terms of Endearment* 〈1 : 16 : 11〉

3・2・2 想像

(11)Brian: “Is that for real?”

John: “You wanna come home over sometime?”

Andy: “That’s bullshit. It’s all *a part of* your image. I don’t believe a word of it.”

ブライアン：「その話 [ここでは父親が子供を殴りつけるということ]、本当かよ？」

ジョン：「じゃ家に来て確かめてみるか？」

アンディ：「そんなのウソだ。全部お前の妄想が膨らんだだけだよ。お前の話なんか全然信じないね。」

映画 *The Breakfast Club* 〈00 : 42 : 02〉

3・2・3 思考

(12)Oliver: “Is that what you think?”

Jenny: “Yes, I think it’s *a part of* it.”

オリバー：「それが君の考えている事なんだろう？」

ジェニー：「少しは当たっているかもね。」

映画 *Love Story* 〈0 : 33 : 29〉

3・2・4 感情

(13)Ann: “No explanations are necessary, Miss. Wiatt. I’m sure we’ll have no problems placing Elizabeth. You really shouldn’t feel guilty. You’re not the first person to put a child up for adoption.”

J.C.: “Oh, I understand that, and I’m really very comfortable with my decision. And I...it’s just...guilt’s not *a part of* it.”

Guilt's not a word in my vocabulary.”

アン：「言い訳は必要ないですよ。子供を預けることは何も悪いことじゃないんですから。後ろめたく思うことは何一つありませんよ。子供を養子縁組に出すのは、何もあなただけじゃないんだから。」

ジェーシー：「そうですね。自分の判断に間違いはないと思っています。それに後ろめたいという気持ちも持ち合わせていないわ。罪悪感なんて言葉は私には似つかわしくないですからね。」

映画 *Baby Boom* 〈00 : 24 : 53〉

3・2・5 能力

(14)Cyn: “Look, everyone wants *a part of* the McGill mind.”

シン：「誰もがマクギルの知恵にあやかりたがっているのです。」

映画 *Working Girl* 〈00 : 51 : 48〉

(15)Lou: “Quick-buck artists come and go with every bull market, but the steady players make it through the bear markets. You're *a part of* something here, Bud. The money you make for people creates science and research jobs. Don't sell that out.”

ルー：「景気のいい時には目先の儲けに走る奴が多く出てくるが、不況を生き残るのは堅実な奴だ。君はここではやり手だが、株で手に入る金は科学と研究に当てるべき物だ。安売りするなよ。」

映画 *Wall Street* 〈00 : 42 : 12〉

3・3 事物に対する使用

3・3・1 物品

(16)Tavenner: “Mr. Chairman, I introduce as evidence, these photographs of the witness attending a rally of the Federation of Atomic Scientists, at the California Institute of Technology, uh, April seventeenth, nineteen forty-six. I ask that they be marked ‘Merrill Exhibit Numbers One through Fifteen.’”

Chairman Wood: “You may do so and let it be *part of* the record, uh, the witness will examine these also.”

タバナー：「委員長、私は証拠として1946年、4月17日に、カリフォルニア工科大学で行なわれた原子力科学者大会に参加した時の証人の写真を提出いたします。写真番号の1から15番までに彼が写っています。」

ウッド議長：「よろしい、あなたの提出物を証拠物件として認めましょう。証人はこれを確認して下さい。」

映画 *Guilty by Suspicion* 〈1 : 33 : 46〉

3・3・2 地域

(17)Stu: “What *part of* England are you from?”

ステュー：「イギリスのどちらのご出身ですか？」

映画 *Mrs. Doubtfire* 〈1 : 03 : 57〉

3・4 状況に対する使用

3・4・1 作戦

(18)Helen: “I think the man who has killed five women in this city was just in your apartment. I don't know why, but I do know he has a plan and you seem to be *a part of* it.”

ヘレン：「サンフランシスコで5人の女性を殺した犯人がこの部屋に忍びこんだのよ。奴の目的は分からないけど、何か企んでいて、その計画にあなたも狙われているようなの。」

映画 *Copycat* 〈1 : 08 : 21〉

(19)Turkish: “Now, Pikeys are well known for their skills of negotiations in business. It's *part of* the reason they talk like they do so you can't follow what's being said.”

ターキッシュ：「パイキー達はビジネスの交渉がうまいことでよく知られている。それは彼らの話し方にも一因がある。何を話しているのか相手に付いてこさせないようにするからだ。」

映画 *Snatch* 〈00 : 18 : 46〉

3・4・2 事態

⑳ Ben: "A fighter that size couldn't get this deep into space on its own."

Luke: "Then he must have gotten lost, been *part of* a convoy or something...."

ベン：「あの手の戦闘機がなぜこんな宇宙の果てにまでいるんだ？」

ルーク「護送か何かの手伝いでもしてて迷ったのかな…。」

映画 *Star Wars: Episode IV A New Hope* 〈1 : 04 : 12〉

㉑ Gekko: "What the hell's going on? I'm looking at two hundred thousand shares move, pal. I want to know if we're *part of* it."

ゲッコー：「一体どういうことだ？20万株が動いている。うちの会社もこの流れに乗っているんだらうな。」

映画 *Wall Street* 〈00 : 15 : 59〉

㉒ Karen: "Don't call me in here to be *part of* one of your charades again."

カレン：「二度とあんたのいつものくだらない茶番に付き合わせないでちょうだい。」

映画 *The Negotiator* 〈1 : 41 : 10〉

㉓ Karen: "I know this whole marriage thing is new to you but just coming home every night is *a big part of* it."

カレン：「結婚生活に慣れるのは大変でしょうけど、毎晩きちんと家に帰ってくることは結婚生活で欠かせないことなのよ。」

映画 *The Negotiator* 〈00 : 15 : 32〉

㉔ Newland: "It's just that I feel so terribly tired at the moment, and I think each day a little more so. I think it would be better for everyone if I were to make a break."

Ellen: "You mean, give up the law?"

Newland: "Certainly that would be *a part of* it. And also just to get away. I'd like to do some traveling."

ニューランド：「僕は今とても疲れてるんだ。日ごとに疲れがひどくなっていくみたいだ。僕が休養すれば、みんなにとってもいいことだと思うんだ。」

ヘレン：「法律の仕事を辞めるってこと？」

ニューランド：「多分、結果としてそうなるだろう。とにかく僕は逃げ出したいんだ。どこかへ旅に出たい。」

映画 *The Age of Innocence* 〈1 : 58 : 24〉

3・4・3 事柄

㉕ Stephen: "You sure you want to really put the, um, yeah, grape jelly in the eggs?"

Sean: "Yeah, it's *a part of* my formula. It's an experiment. (中略) I'll put that in the formula. Egg shells are in the formula."

Stephen: "Now, now, what about the shell? Are you gonna leave shells in there?"

Sean: "Yeah."

Stephen: "They're *a part of* the formula?"

Sean: "Yeah, they're *a part of* the formula."

ステファン：「本当に卵の中にグレープジェリーを混ぜるのか？」

シーン：「うん、僕のメニューではそういう作り方なんだ。実験してみよう。(中略) そうして僕のオリジナルのメニューを作るんだ。あ、卵の殻が入ってる。」

ステファン：「卵の殻をどうするんだ？入れたままにしておくのか？」

シーン：「うん。」

ステファン：「そういう作り方の料理なんだな？」

シーン：「そう。そういう作り方の料理なんだよ。」

映画 *Backdraft* 〈1 : 30 : 35〉

こういった (a) part of X の使用とその日本語訳は往々にして意識として看過されがちであるが、こうした多義的表現を生む根底には、(a) part of X によって顕著化された部分が、背後にある全体との関係の中で多義を形成することで、

多義の意味拡張を生成している。

4. 分 析

4.1 (a) part of X の多義認識

前章に示した映画の台詞の (a) part of X の使用例を分析すると、図3のように中心的概念から X の部分に「人物」、「心的様態」、「事物」、「状況」の4つの対象を取ることが明らかになった。これらの4つは、われわれの世界の区分という認知基盤に基づく、自然な感性に従った語義設定と考えられる。(a) part of X の X の部分はあらゆる意味の名詞を取ることができ、その名詞を用例からの帰納的分析により性質によってまとめ、上位概念としての中心的概念から対象に応じて下部概念としての語義に拡張することができる。これを図式化すると、図3のようになる。

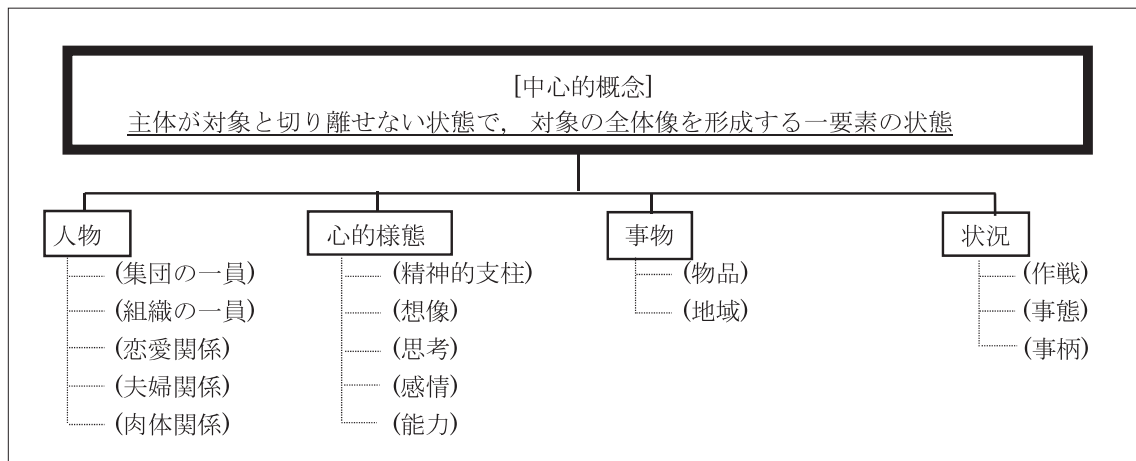


図3 (a) part of X の多義構造図

先の用例採集の結果、(a) part of X の X の4つの概念の、「人物」からは“集団の一員”，“組織の一員”，“恋愛関係”，“夫婦関係”，“肉体関係”といった下部概念を生むことが明らかになった。「心的様態」からは“精神的支柱”，“想像”，“思考”，“感情”，“能力”といった下部概念を生むことが明らかになった。そして「事物」からは“物品”と“地域”，さらに「状況」からは“作戦”，“事態”，“事柄”といった下部概念を生むことが明らかになった。

(a) part of X そのものの意味は、「Xの一部」という概念を基本に置いて、その語の名詞の意味に依存し、その意味が反映されることで決定される。しかしながら、このことはXに来る名詞の意味と同一であることを意味しない。Xの名詞の意味の、全体を形成する上で必要不可欠な一部分といった概念を基に置くことで、例文で見たような多義と訳語の拡張を引き起こすと考えられる。

4.2 (a) part of X の概念認識と<部分>と<全体>の認知原理

(a) part of X の多義を支える中心的概念の構図を図示すれば、図4のようになる。すなわちこれは、各構成要素としての tr が部分の構成要素となって、全体である lm を形成することを意味している。このうち、どれか一つでも tr が欠ければ、lm は完成しない。このことは、ちょうど煉瓦を積み上げて家の壁という全体像を形成するような発想である。壁という全体像を lm とすれば、それを作り上げるために必要な個々の煉瓦が tr ということになる。そしてこうした概念認識を中心的概念として共有し、それが「人物」、「心的様態」、「事物」、「状況」という対象にイメージ・スキーマ的転用により拡張して用いられることで、(a) part of X の多義が形成される。

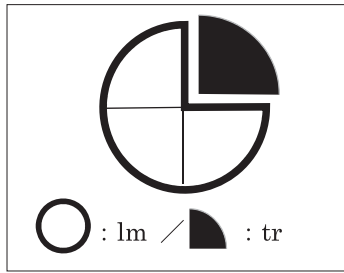


図4 (a) part of X の概念認識

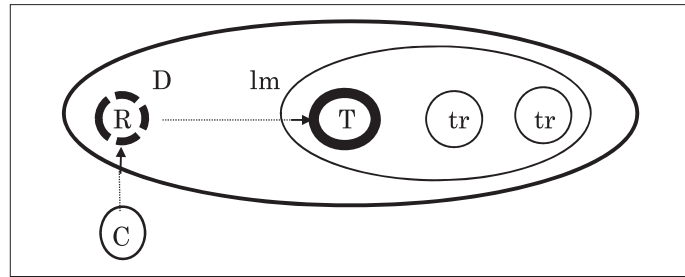


図5 (a) part of X の「部分」と「全体」の関係

(a) part of X の多義性の認知プロセスは、Langacker (1990, 1993) の唱える参照点を基にして、そこに「部分」と「全体」の重層的な推移関係を示す性質が考えられる。図5はその性質を示したものである。ドメイン (D) 内における R (Reference) を「部分」としての参照点として、trajector (tr) の集合体で構成される Landmark (lm) としてのカテゴリーの「全体」の中から一つの tr に T (Target) としての焦点を当てながら、その背後にあるカテゴリーの性質としての lm が投影される。このようにとらえれば、先の用例に見た広範な多義が有効に説明づけられる。先に見た *GCEJD 4* と *NODE* における (a) part of X の多義的意味記述も、こうした認識を基に形成されていることが見て取れる。また、多義の恣意性と有契性という問題についても、原義と転義の派生関係が有契的であるがゆえに多義が生じることが証明される。

5. まとめ

今回、映画の台詞を言語資料を用例として、(a) part of X の多義性を分析した。(a) part of X の多義性は、「主体が対象と切り離せない状態で、対象の全体像を形成する一要素の状態」といった中心的概念を基に「人物」、「心的様態」、「事物」、「状況」を対象に形成されることを明らかにした。すなわち部分 (tr) を参照点とした全体 (lm) という意味認識によって、カテゴリー全体の性質や属性といったものを表し、多義を形成する。(a) part of X の多義的意味記述の語義の羅列だけに終始した *GCEJD 4* と *NODE* における多義の有契性と派生関係を示すことに成功し、映画の台詞の分析結果を図式化し可視化した点に、本研究の価値が見出される。

一見無秩序にも見える (a) part of X の語義とそこでの概念は、中心的概念のメタファー的拡張によって派生していると考えられる。この中心的概念の存在の明確化により、一見雑多な語義とそこでの概念の拡張、更にはそれを支える意味の有契的な関連も有効に説明付けが可能となる。こうした中心的概念から下部概念への拡張は、前述した Fauconnier (1997: 8) の主張を裏付けるものである。われわれが言葉を用いコミュニケーションが図れるのは、辞書の助けによってではない。われわれの認知機構には言葉の使用から意味の拡張が生じ、その理解を助けるメカニズムが備わっているのである。そのメカニズムこそが「中心的概念」である。

注

- 1) 本研究は、2020年度久留米工業大学学長裁量費による教育研究費の助成を受けた研究成果の一部である。なお、本論文における不備の一切は筆者に帰するものである。
- 2) これと同様の指摘は、Allerton (1979: 51) や Colombo & Flores (1984) にも見られる。同様に Cruse (2000: 109-110) では、多義の意味構造は線的 (linear) な関係によって結び付けられるという見解を示している。

参考文献

- Allerton, D. J. (1979). *Essentials of Grammatical Theory: A Consensus View of Syntax and Morphology*. London: Routledge & Kegan Paul.
- Boars, F. & Lindstromberg, S. (2006). Cognitive Linguistic Applications in Second or Foreign Language Instruction: Rationale, Proposals, and Evaluation. In Gitte K., Michel A., René D. and Francisco J. R. de Mendoza Ibáñez ed. *Cognitive Linguistics: Current Applications and Future Perspectives*. pp. 305-358. Berlin: Mouton de Gruyter.

- Bolinger, D. (1977). *Meaning and form*. London: Longman.
- Brugman, C. (1981). The story of over. MA thesis, Dept. of Linguistics, UC Berkeley. (1988). *The story of over: Polysemy, semantics and the structure of the lexicon*. New York: Garland Press.
- Colombo, L. & Flores, G. (1984). The meaning of Dutch prepositions: A psycholinguistic study of polysemy. In Helmut S. ed. *Linguistics 22*. pp. 51-98. The Hague: Walter de Gruyter.
- Cruse, D. A. (2000). *Meaning in Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fauconnier, G. (1997). *Mappings in Thought and Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Goddard, C. (1998). *Semantic Analysis: A Practical Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Johnson-Laird, P. (1983). *Mental Models: Towards a cognitive science of language, inference, and consciousness*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, G. (1987). *Women, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: Chicago University Press.
- Langacker, R.W. (1990). *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
- Langacker, R.W. (1993). Reference-Point Constructions. In Dagmar D. ed. *Cognitive Linguistics 4*, pp.1-38. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Ravin, Y. and Leacock, C. eds. (2000). *Polysemy: Theoretical and Computational Approaches*. Oxford: Oxford University Press.
- Ruhl, C. (1989). *On Monosemy: A Study in Linguistic Semantics*. Albany, NY: State University of New York Press.
- Saussure, F. de. (1916). *Cours de Linguistique Générale*. Paris: Payot. (小林英夫訳. (1972). 『一般言語学講義』岩波書店.)
- Taylor, J. R. (2012). *The Mental Corpus: How Language is Reprerented in the Mind*. Oxford: Oxford University Press.
- Tyler, A. & Evans, V. (2003). *The semantics of English prepositions: Spatial scenes, embodied meaning and cognition*. Cambridge: Cambridge University Press. (国広哲弥監訳・木村哲也訳. (2005). 『英語前置詞の意味論』研究社.)
- Ullmann, S. (1962). *Semantics: An Introduction to the Science of Meaning*. Oxford: Basil Blackwell. (池上嘉彦訳. (1969) 『言語と意味』大修館書店.)
- 国広哲弥. (1982). 『意味論の方法』東京：大修館書店.
- 国広哲弥. (1998). 「英語多義語の認知意味論的分析」『神奈川大学創立七十周年記念論文集』 pp. 265-284. 神奈川大学創立七〇周年記念論文集編集発行実行委員会.
- 松中完二. (2005). 『現代英語語彙の多義構造－認知的視点から－【理論編】』白桃書房.
- 松中完二. (2006). 『現代英語語彙の多義構造－認知的視点から－【実証編】』白桃書房.

辞 書

- Pearsall, J. and Hanks, P. Ed. (1998). *The New Oxford Dictionary of English. (NODE)*. Oxford: Oxford University Press.
- 亀井 孝・河野六郎・千野栄一編著. (1996). 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂.
- 木原研三監修. (2017). 『グランドセンチュリー英和辞典 第4版』(GCEJD4) 三省堂.
- 瀬戸賢一編. (2007). 『英語多義ネットワーク辞典』小学館.
- 辻 幸夫編. (2013). 『新編認知言語学キーワード事典』研究社.